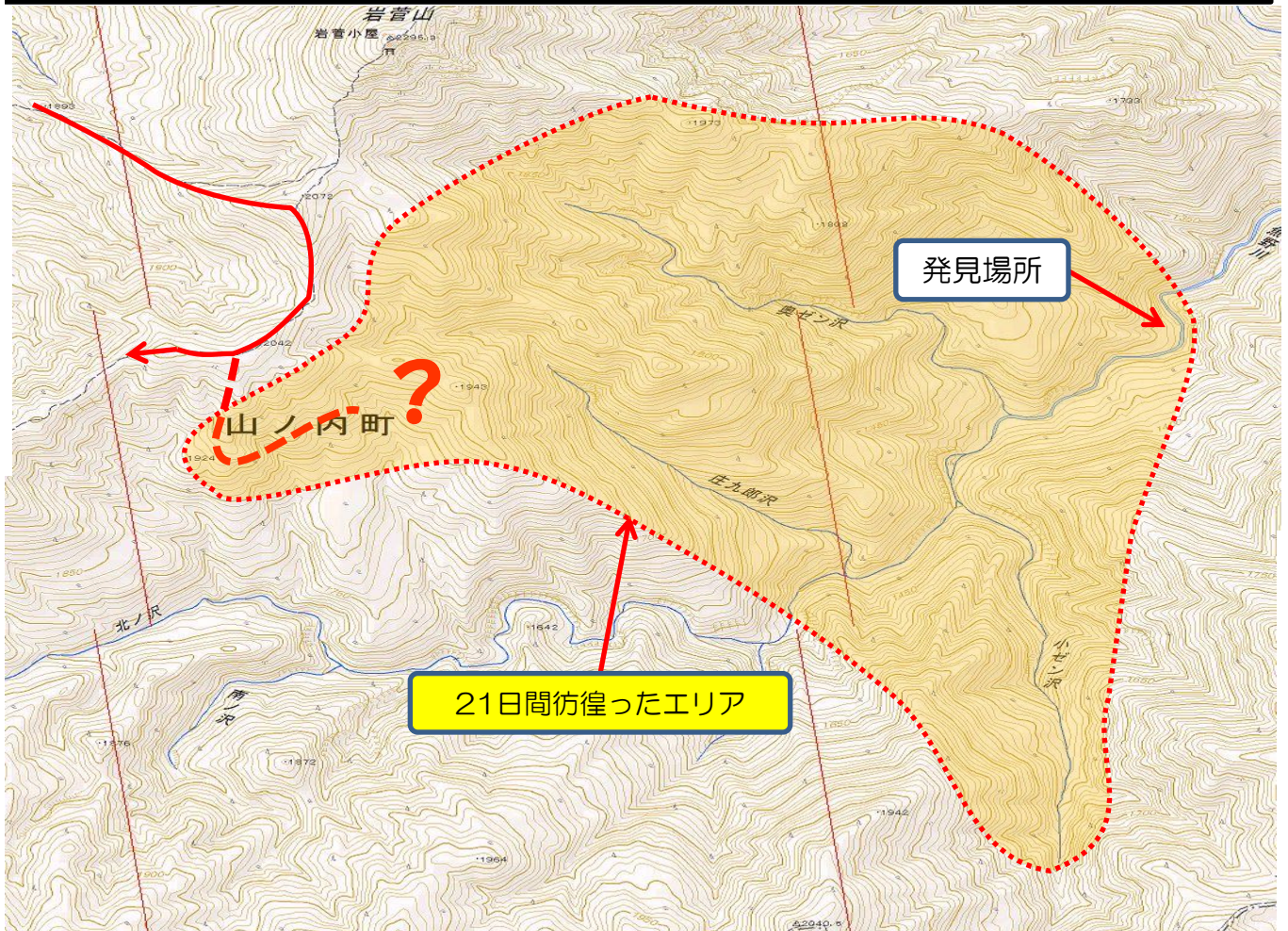


岩菅山遭難(1999年5月)

岩菅山に計画したが、時間が足りず登頂を諦める。同ルート下降はおもしろくないと思い、急に周回コースに変更。残雪があり、道が不透明。一端藪の中に入ったら抜け出すことができず、21日間彷徨った。



解説

歩き始めは、午前11時30分、稜線上に登ったのが午後3時。出発が遅い。ここで、岩菅山を諦めた。同じ道を下るのは、面白くないと、周回コースに急遽計画を変更し、残雪のある稜線を歩く。アップダウンを繰り返すうちに残雪は無くなり、いつしかササ藪の中だった。遭難者は、「これで、歩きやすくなる」とホッとしたというが、これが大きな誤りであった。稜線上は、雪が残っている。しかし、稜線から離れ下っているからこそ雪が無い。こんな簡単な構図さえ道迷いでは、気づかない。開けた平坦地を見つけ、やみくもに下った。下っていく途中で暗闇がせまり、初めて道に迷ったことを思い知った。

翌日、上へ上へと来た道に戻ったが、障害物が出て前進を阻まれた。すでに、現在位置も分らず、ひたすら上へ上へと気が焦るが、結局、登るのを諦め沢を下ってしまう。21日間彷徨った末、偶然、釣り師に発見された。

第1に出発が遅いこと。第2に、急にルートを変更したこと。これが、大きな遭難の要因である。また、残雪期は、トレースが分りづらい。道と残雪と熊笹のミックスは慎重な行動をとってもらいたい。道迷いは、気付いた時には、時すでに遅し。なぜか、予測をしないからである。「稜線上を歩くのだから、雪が無いとおかしい」とか、普段からの「気づき」について注意したい。